

万田アミノアルファの解説

1. 本質

(1) Q : 「万田アミノアルファ」を一言で表現すると何ですか？

A : 植物が本来持っている生命力を引き出すものです。

散布やかん水等によって植物は元気に生育します。

(2) Q : 「万田アミノアルファ」の材料や製造法は？

A : 「万田アミノアルファ」は、長年の研究により開発した「植物発酵生産物」に「液肥」を配合したものです。「植物発酵生産物」は、当社の「万田酵素」を開発する過程で培ったノウハウを活かして製造したものです。これは黒砂糖をベースに、数十種類の果実類・穀類・海藻類などを原材料として、当社独自の技術で発酵・熟成を繰り返し、3年以上の年月をかけてつくられたものです。

「万田アミノアルファ」の性状は液状、pH 6.0 (弱酸性)、比重は約 1.2 です。

「液肥」の原材料は有機質 (魚エキス、精製ゼラチン) 含有で、肥料成分は 5-5-5% です。

(3) Q : 「万田アミノアルファ」は登録商品ですか？

A : 「万田アミノアルファ」は普通肥料として登録しています。

登録番号「生第 87466 号」です。

2. 作用・効果

(1) Q:「万田アミノアルファ」を使用すると、どのような作用・効果がありますか？

A: 散布又はかん水・かん注することで植物の活性が高まり、次の様な効果が現れます。

生育の促進(根張りがよくなる等)

増収

品質向上

・食味の向上(糖度、米の食味値)

・ビタミンCなど栄養分の増加

・花の色の鮮やかさが向上

障害回復力の増強(台風、冠水、低温等)

日持ちの向上(作物の鮮度保持、老化による食味値の低下が少ない)

(2) Q:「万田アミノアルファ」を使用すると無農薬栽培や有機栽培ができますか？

A: 無条件で無農薬栽培を可能にするものではありませんが、「万田アミノアルファ」を使用することにより活性が高まり、作物が元気に生育するので、茶、リンゴ、梨、イチゴやトマト等で病害の防除回数を半減している事例は各地にあります。無農薬・減農薬栽培に活用されることをお勧めします。

残念ですが、有機栽培には使用できません。肥料成分を保ち、製品を安定化させるために一部化成肥料、沈殿防止材を使用しています。

(3) Q: 雑草への影響はありますか？

A: 特に雑草への効果試験は行なっていませんが、「万田アミノアルファ」は肥料成分を含みますので、作物同様に雑草も元気に育ちます。

(4) Q: 殺虫・殺菌効果はありますか？

A: 「万田アミノアルファ」には、直接的な殺虫・殺菌効果はありません。

しかし、「万田アミノアルファ」を使用すると生育が旺盛になり、病害虫の被害が軽減される可能性はあります。

(5) Q : 効果の現われやすい作物は？

A : 永年作物よりは単年度作物の方が、効果の発現が早いようです。

しかし、永年作物は連年使用していただくことにより、更に効果が高まる傾向にあります。
施設作物の方が、露地作物よりは現われやすいようです。

3. 使用方法

(1) Q : どのようにして使いますか？

A : 噴霧器などを使って葉に霧状で散布します。

かん水・かん注により植物の根元へ与えます。

(2) Q : 使用する濃度と効果については？

A : 一般的に葉面散布は 1,000 倍の希釈液の使用を基本とし、500 ~ 2,000 倍の範囲で使用します。栄養生長が目的の場合には 1,000 ~ 2,000 倍で、生殖生長や品質の向上を目的とする場合には 500 倍の希釈液の使用が基本です。

かん水・かん注する場合、葉面散布と同様の濃度で使えます。

散布・かん水・かん注ともに、水量が多くなる場合は「万田アミノアルファ」の使用量は、1 回につき 10a 当たり 300ml を目安としてください。

育苗期のものや小さいものに対しては、ジョーロ等でかん水すると容易でかつ有効です。

(3) Q : 使用するときに、特に注意をすることはありますか？

A : 肥料成分を含みますので、種子浸漬や挿し木時には使用しないでください。

原液あるいは、濃度の高い液肥が直接植物にかからないように注意してください。

4. 混用

(1) Q : 農薬との混用はできますか？

A : 農薬との混用は、おすすめしておりません。しかし、省力化等の理由から農家の方々は混用して使っていますが、これまでに混用による薬害の報告はございません。ただし、単剤で使用する事が明記されているものやホルモン剤とは混用しないでください。また、石灰硫黄合剤と混合すると、有毒ガスが発生する恐れがあるので混用しないでください。新しい農薬の場合、小面積で一度試してからご使用ください。

(2) Q：液肥との混用はできますか？

A：「万田アミノアルファ」は肥料成分を含みますが、1,000倍希釈で使用する場合は、液肥は通常倍率で混用できます。「万田アミノアルファ」を500倍で使用する場合は、他の液肥は不要です。

(3) Q：その他の資材との混用・併用はできますか？

A：これまでに混用による薬害の報告はございません。ただし、これら資材との混用は、互いの性質をよく把握して行なってください。

(4) Q：展着剤は必要ですか？

A：「万田アミノアルファ」単用で使用される場合、特に必要ありませんが、他剤との混用の際など必要であればご使用ください。

(5) Q：他の資材と混用する場合に注意することは？

A：小規模な面積で問題が起きないか試用してみてください。
真夏の日中の高温時には、避けた方がよいでしょう。
それぞれの希釈倍率を守ってください。
農薬等では、その使用基準に従ってください。
混用の手順は、まず所定濃度の「万田アミノアルファ」希釈液を作り、その後に薬剤等を加えてください。

5. 保存

(1) Q：開封後はどの位の期間保存できますか？

A：開封後は直射日光を避け、冷暗所で保管してください。
1年後でも使用できますが、なるべく早く使用してください。

(2) Q：希釈した液は保存ができますか？

A：希釈した液での長期保存はできません。できるだけその日（又は次の日）のうちに使い切るようにしてください。